

豪雪の国

日本は世界でも有数の雪国であり、日本の市は世界の年間降雪量のトップ 3 を占める。妙高市のように日本海側に位置する都市では、海からの気流が山にぶつかり、「湖水効果」と呼ばれる大雪が降る。妙高戸隠地域の生活はこの大雪によって形作られ、その影響は冬だけではない。雪解け水は、公園の豊かな森林や湿地帯に栄養を与え、人間社会を支える川や湖にも供給されている。

妙高戸隠エリアの積雪量

公園の積雪量はどのくらいなのか。数字で見てみよう。

- 記録的な最多積雪量 5.1 メートル
- 1 日の最大降雪量 1.5 メートル
- 平均積雪日数 142 日
- 過去最も早い降雪 11 月 10 日
- 過去最も遅い降雪 4 月 26 日
- 高谷池での記録的な初雪 10 月 17 日
- 高谷池での記録的な積雪 5 月 19 日
- 2 月平均最低気温 -3°C

なぜこんなに雪が降るのか？

シベリアからの冷たい風が日本海を南東に吹き抜け、日本海の水蒸気を吸収する。風はその水蒸気を日本の沿岸に運び、山にぶつかって上昇させる。風が上昇すると温度が下がり、水蒸気が凝縮されて雪となる。そのため、雪は主に山の海側に降り注ぐ。山を通過する風は水蒸気をほとんど失っているため、内陸部では雪が少なくなる。

本州の中央部には、長い山脈が海岸線とゆるやかに平行しており、島を日本海側と太平洋側の生態系ゾーンを二分する背骨のようにになっている。太平洋側の県は通常、日本海側に比べて冬が穏やかである。

雪国の生活

大雪に見舞われる地域では、さまざまな工夫を凝らしている。ここでは、街を訪れる人が出会うかもしれない工夫をいくつか紹介する。

屋根の雪割り

背の高い屋根には、中央の稜線に沿って仕切りが設けられている。これは「雪割板」と呼ばれ、屋根の中心線に沿って雪のまとまりを崩すことで、屋根から雪を滑り落ちやすくする。雪が滑り落ちないと、積り続けて屋根を傷つけてしまう。

スノーダンプ

道路近くの空き地は「雪捨て場」と呼ばれ、除雪車で道路から除雪された雪の堆積場所である。この雪捨て場がなければ、道路脇に押し出された雪がたまり、道路が狭くなってしまう。

縦型信号機

日本の多くの国では信号機は水平に設置されているが、公園の大雪が降る一部の場所では、上部に溜まった雪で3つの信号機が見えなくなるのを防ぐため、信号機を垂直に吊るしている。

雪解けの道

日本の一部の地域では、道路にスプリンクラーを設置し、暖かい地下水を道路に流し続けることで、雪や氷が積もるのを防いでいる。妙高市では、このスプリンクラーが極寒の環境に対応できないため、道路の下に暖房装置を設置しているところもある。

高架住宅と玄関

多くの住宅は、1階部分が高くなっており、玄関まで階段でつながっている。なかには、2階に玄関を設ける家もある。

背の高い消火栓

2階の窓と同じ高さの消火栓は、雪が深くても使えるように、様々な高さにホースの取り付け場所が設けられ、深い雪の中でもアクセスできるようになっている。

冬の楽しみ

妙高戸隠地区は、冬のレジャーに最適な場所である。冬はほぼ毎日雪が降るため、スキー場には常に新鮮なパウダースノーが降り、ダウンヒルスキーやスノーボード、そり遊びなどが人気を集めている。クロスカントリースキーやスノーシューは、冬の森を満喫でき、カモシカなどのめったに見られない動物にも出会える人気のアクティビティである（旅行者はガイドや用具のレンタルを利用できる）。この地域にある2つの湖、野尻湖と霊仙寺湖では、冬にワカサギ釣りが楽しめる。霊仙寺湖は凍結するので、氷に穴を開けて釣りをする人々のテントが点在することがよくある。野尻湖では、船体に工夫を凝らした屋根付きの暖かい船の中で釣りをする。公園内には四季を通して楽しめる温泉がたくさんあるが、冬になると雪山での疲れを癒すために温泉に入ることがよくある。多くの露天風呂からは、雪に覆われた庭園や遠くの雪山を眺めることができる。

地球上で最も雪の多い場所のひとつ

妙高戸隠連山国立公園の冬景色へようこそ。1年のうち5ヶ月間は大雪に見舞われ、トンネルのような道路、雪洞（かまくら）、氷の張った湖など、別世界のような風景が広がる。人々はスキーやスノーシューで森を探検し、道路は高さ4メートルのポールが境界を示すだけで見えなくなる。

小さな冬眠動物

この小さな生き物は、ヤマネだ。ヤマネは森に住み、夜になると巣から出てきて、果物や昆虫、種子、花の蜜などを食べる。雪が降り積もる季節になると、ヤマネは木の穴などに丸まって冬眠する。彼らの体温は急激に下がり、体温は一般的な冬眠動物よりかはるかに低く、0℃程度になる。これにより、眠っている間に限られた体脂肪をよりゆっくりと消費することができる。